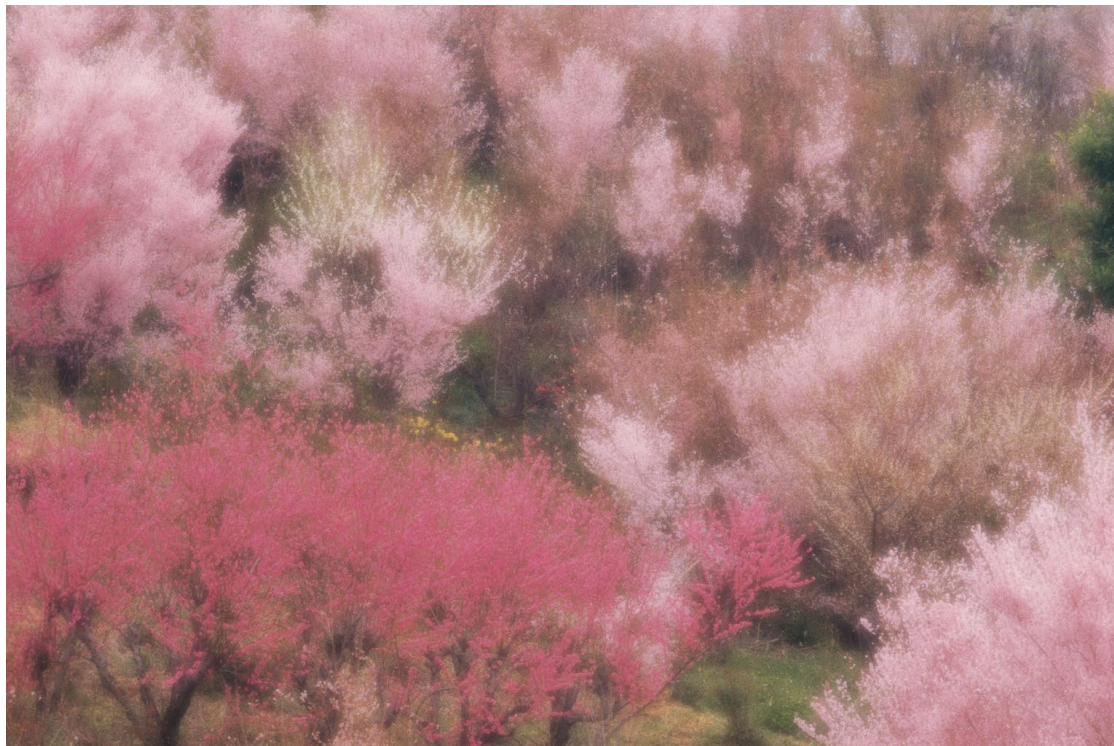


「福島に桃源郷あり」。

花見山の春を日本一と評した美の巨匠



▲花見山（「春の花木」より） 撮影：秋山庄太郎

Shotaro Akiyama Photo Art Exhibition

秋山庄太郎展 2026

写真でたどる 83 年の軌跡～ 人と作品

美の追憶

Memories of His Life and Works



秋山庄太郎（1920～2003）
2001 年福島市ふるさと栄誉賞受賞

3/14 → 4/11
|土| |土|

会場：花の写真館
開館時間：9:00～16:30
(入館は16:00まで)

観覧料：一般 500円
小・中学生 300円



詳しくはこちら

主な内容

- * 没後発見された若き日の手作り写真集や出征前に自費出版した写真集『翳』所収作品
- * 写真家としての地位を揺るぎないものとした女性ポートレート
- * 写真家人生の転機となった「パリの四ヶ月」
- * 「秋山小劇場」と呼ばれた舞台俳優
- * 芸術家の肖像写真と秋山庄太郎コレクション絵画
- * ライフワーク「花」と遺作「遊写三昧」ほか

主催：福島市、福島市写真美術館（（公財）福島市振興公社）
協力：秋山庄太郎写真芸術館、第一印刷、秋山庄太郎写真芸術協会
後援：NHK福島放送局、福島民報社、福島民友新聞社、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、福島コミュニティ放送FMボコ



▲女優・原節子 撮影：秋山庄太郎



▲K 画伯像
(小糸源太郎)
撮影：秋山庄太郎
(作品集『翳』より)



▲小糸源太郎作《三色堇》
(秋山庄太郎コレクションより)

関連イベント（詳細な実施内容はウラ面をご覧ください）

花見山写真 公募展

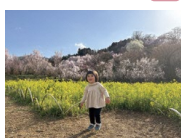
WEB 応募限定

「感動！花見山 フォトギャラリー」

あなたが花見山で撮った
感動スマホ写真を大募集
前回（2024 年）グランプリ作品▶

募集期間

3/14(土)～4/11(土)



4/4
(土)

10:00～
16:30

会場 花見山公園、
花の写真館

撮影ワークショップ

「カメラ散歩～春は花見山♡」

花見山をのんびり散歩しながら、
楽しく写真を撮りましょう。

講師 秋山庄太郎写真芸術館
ワークショップチーム ほか



4/5
(日)

13:30～
15:00 頃

会場 花の写真館
2階 多目的室

写真とピアノのコンサート

「フォトアート作品を奏でる♪」

秋山庄太郎や花見山作品などの
スライド上映にあわせて、
ピアノ演奏のすてきなひとときを。
演奏 齋藤康子・別府直子



写真とともに歩んだ人生

§ 1 【青春の墓標 習作群と遺写『翳』】

1920 (大正 9) 6 月 8 日／東京・神田生まれ。
 1923 (大正 12) 3 歳／横浜・花咲町で関東大震災に遭う。
 1933 (昭和 8) 13 歳／生涯の親友となる高木貞男の兄のすすめで写真を始める。小型カメラ・パーレットを買ってもらう。
 1938 (昭和 13) 18 歳／第一早稲田高等学院入学。写真部に入部。
 1943 (昭和 18) 23 歳／早稲田大学卒業。『翳』(自費出版)刊行。陸軍に応召。
 1945 (昭和 20) 25 歳。陸軍少尉として長野で終戦。



▲「うららか」(最初の写真)



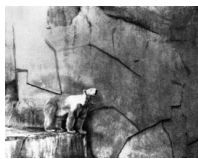
▲「習作」(『翳』所収)



▲陸軍時代の秋山庄太郎



▲「翳」(『翳』所収)



▲「白熊」(『翳』所収)

§ 2 【美しきをより美しく】

1946 (昭和 21) 26 歳／東京・銀座に写真館「秋山写真工房」開設。
 1947 (昭和 22) 27 歳／秋山写真工房閉鎖。近代映画社写真部に入社。
 1951 (昭和 26) 31 歳／近代映画社退社、フリーのカメラマンとなる。
 1953 (昭和 28) 33 歳／二科会写真部創立会員となる。
 1959 (昭和 34) 39 歳／『週刊文春』表紙担当 (10 年間)。



上「東京エキゾチズム」(シャンソン歌手・寄立薫)
 左「湖畔秋色」(原節子のお気に入り)
 右「ジブシー・ローズ」(居酒屋にて懐中電灯で撮影)



§ 3 【写真芸術家の道を歩む】

1960 (昭和 35) 40 歳／パリを中心に欧州外遊。
 1964 (昭和 39) 44 歳／『週刊現代』表紙担当 (24 年間)。
 1965 (昭和 40) 45 歳／この頃、ライフワーク「花」始動。
 1966 (昭和 41) 46 歳／月刊誌『歌劇』表紙担当 (29 年間)。
 1970 (昭和 45) 50 歳／『週刊ポスト』表紙担当 (26 年間)。
 1972 (昭和 47) 52 歳／『週刊小説』文士のポートレートを担当。
 1975 (昭和 50) 55 歳／『月刊美術』「現代日本の作家たち」連載開始 (28 年間)。



左：「パリジェンヌ」
 右：「憩える人々」
 (『パリの四カ月』より)

▲「奥村土牛」
(日本画家)▲「井上 靖」
(小説家)▲「滝沢 修」
(『炎の人』ゴッホ役)

§ 4 【ライフワークに生きる】

1980 (昭和 55) 60 歳／「花の会」結成。日本写真芸術専門学校校長に就任。
 1986 (昭和 61) 66 歳／紫綬褒章受章。
 1993 (平成 5) 73 歳／旭日小受章受賞。
 2000 (平成 12) 80 歳／「美しきもの 心やさしく」(福島市写真美術館所蔵) 開催。
 2001 (平成 13) 81 歳／福島市ふるさと栄誉賞受賞。
 2002 (平成 14) 82 歳／第 1 回秋山庄太郎「花」写真コンテスト全国公募。「遊写三昧〜秋山庄太郎の写真美学」(東京都写真美術館) 開催。
 2003 (平成 15) 1 月 16 日／東京・銀座の写真賞選考会場で急逝。

より詳しくは、本展にて揭示。

4/4
(土)

10:00 ~ 16:30

会場 花見山公園、
花の写真館

撮影ワークショップ

「カメラ散歩〜春は花見山♡」

花見山公園や周辺ですてきな風景や花の写真を一緒に撮りましょう。撮影後、花の写真館でポストカードにプリント、講評・展示します。

雨天決行、荒天時は室内での講演に変更

講師：秋山庄太郎写真芸術館ワークショップチーム
 秋山庄太郎写真芸術協会会員の講師や芸員、花見山に詳しいスタッフらで構成する講座チームがナビゲートします。

会場：花見山公園、花の写真館

【Part1】10:00 花見山公園集合、園内散歩・撮影

11:30 頃から自由撮影、各自食事や移動

【Part2】15:30 花の写真館 2F 多目的室集合、

花見山で撮影した写真を各 1 枚プリント。

講評・展示後、16:30 頃解散します。

定員：20 名 (申込先着順)

参加料：一般 500 円、小・中学生 300 円 (ワークショップ当日、現地撮影後、花の写真館観覧料込み)

申込方法：3月1日(日)〜10日(火)に文化振興課へ電話(TEL:024-525-3785)または申込フォーム(右下の二次元コード参照)で。

協力：秋山庄太郎写真芸術協会、秋山庄太郎写真芸術館、(株)第一印刷

※デジタルカメラを持参してください。

※花見山公園から花の写真館への

移動や昼食は各自でお願いします。



花見山写真 公募展

募集期間

3/14(土)〜4/11(土)

WEB 応募限定

「感動! 花見山フォトギャラリー」

あなたの撮った花見山での「感動!」をぜひご応募ください!

内容：花見山公園で撮影した花、風景、スナップ写真をデータで応募。

応募方法：スマートフォンなどで下記の QR コードにアクセスするか、特設サイト

(URL: <https://www.city.fukushima.fukushima.jp/soshiki/7/1032/2/6/4867.html>)にて、手続きにしたがって送信してください。

応募料：無料

入賞：10 作品 (グランプリ 1、入選・佳作各若干名) それぞれ賞状のほか記念品を進呈します。

展示：花の写真館にて、入賞作品はポストカードサイズにプリントして展示、大型モニターで入賞作品と一次審査通過作品を上映します。また、秋山庄太郎写真芸術館特設ホームページにも、入賞作品と一次審査通過作品をご紹介します。

*前回 (2024 年) の入賞作品・一次審査通過作品をご覧いただけます。

<http://akiyama-shotaro.com/hanamiyamaphoto.html>



福島市写真美術館 (通称：花の写真館)



〒960-8002
 福島市森合町11番36号
 TEL 024(563)4990

4/5
(日)

13:30 ~ 15:00 頃

会場 花の写真館
2階 多目的室

写真とピアノのコンサート

「フォトアート作品を奏でる♪」

秋山庄太郎撮影の名作や花見山作品などのスライド上映にあわせて、素敵なピアノ演奏やほっこりするようなおしゃべりのひと時をお過ごしください。

日時：4月5日(日) 13:30 ~ 15:00 頃

演奏：齋藤康子・別府直子

会場：花の写真館 2F 多目的室

定員：40 名 (申込先着順)

参加料：一般 500 円、小・中学生 300 円

(花の写真館観覧料込み)

申込方法：3月1日(日)〜10日(火)に文化振興課に電話(TEL:024-525-3785)または申込フォーム(右下の二次元コード参照)で。

※本コンサートのピアニストは、秋山庄太郎写真芸術館などで、スライド上映や写真展示をテーマにしたりしながらのギャラリーコンサートを担当。作品のイメージにあわせてのさまざまなジャンルの曲が演奏されます。

